

# JIS

UDC 678.66 : 678.07

K 7311

## ポリウレタン系熱可塑性エラストマーの 試験方法

JIS K 7311 -1995

(2001 確認)

(2006 確認)

平成 7 年 12 月 1 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

## 高分子部会 エラストマー専門委員会 構成表 (昭和62年1月1日制定のとき)

	氏名	所属
(委員長)	岩倉 義 男	成蹊大学
	岡本 弘	愛知工業大学
	横山 哲 夫	長崎大学
	松井 司	通商産業省生活産業局
	大久保 和 夫	工業技術院標準部
	塚野 隆	財団法人高分子素材センター
	池原 浩 輔	アシックス株式会社
	片岡 茂	株式会社潤工社
	西尾 兼 光	東海ゴム工業株式会社
	豊田 副 武	日本バルカー工業株式会社
	木下 紘 治	バンドー化学株式会社
	犬伏 敏 博	美津濃株式会社
	尾形 昭 夫	横浜ゴム株式会社
	古川 朝 映	エム・ディー化成株式会社
	浅井 利 彦	大日精化工業株式会社
	伊藤 七之助	大日本インキ化学工業株式会社
	賀井 邦 久	武田薬品工業株式会社
	館 典 利	日本エラストラン株式会社
	大淵 征 夫	日本ポリウレタン工業株式会社
(事務局)	池田 喜 好	工業技術院標準部繊維化学規格課
	遠藤 薫	工業技術院標準部繊維化学規格課
(事務局)	渡辺 武 夫	工業技術院標準部繊維化学規格課 (平成7年12月1日改正のとき)
	稲葉 知 英	工業技術院標準部繊維化学規格課 (平成7年12月1日改正のとき)

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和62.1.1 改正：平成7.12.1

官報公示：平成7.12.1

原案作成協力者：社団法人 強化プラスチック協会

審議部会：日本工業標準調査会 高分子部会 (部会長 三田 達)

審議専門委員会：エラストマー専門委員会 (委員長 岩倉 義男) (昭和62年1月1日制定のとき)

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部繊維化学規格課 (〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1) へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

ポリウレタン系熱可塑性エラストマー  
の試験方法

K 7311-1995

## Testing methods for thermoplastic polyurethane elastomers

1. 適用範囲 この規格は、ポリウレタン系熱可塑性エラストマーの試験方法について規定する。

備考1. この規格の引用規格を、次に示す。

JIS K 7100 プラスチックの状態調節及び試験場所の標準状態

JIS K 7215 プラスチックのデュロメータ硬さ試験方法

JIS Z 8401 数値の丸め方

2. この規格の中で{ }を付けて示してある単位及び数値は、従来単位によるものであって、参考として併記したものである。

2. 試験項目 この規格に規定する試験項目は、次のとおりである。

- (1) 比重試験
- (2) 引張試験
- (3) 引裂試験
- (4) 硬さ試験
- (5) 反発・弾性試験
- (6) 摩耗試験
- (7) 流れ試験

### 3. 試験の一般条件

3.1 試験室の標準状態 試験室の標準状態は、原則として、JIS K 7100に規定の標準温度状態2級(23±2 °C)及び標準湿度状態2級[(50±5)%]とする。

3.2 試料の状態調節時間 試料は、成形後3.1に規定する試験室の標準状態において88時間以上状態調節した後試験を行う。この場合、当事者間の協定によってほかの条件で状態調節してもよい。

3.3 試験片作製用試料 試験片は、原則として、射出成形によって、大きさ100 mm角以上、厚さ2~3 mmに成形した平板状試料から採取する。この場合、射出成形のゲート付近を避けて採取しなければならない。

射出成形は、試験を行う樹脂のタイプ・グレードによって適正な条件で行う。

3.4 試験結果の丸め方 各試験によって得られた試験結果は、JIS Z 8401によって丸め、表1のけた数で表す。